

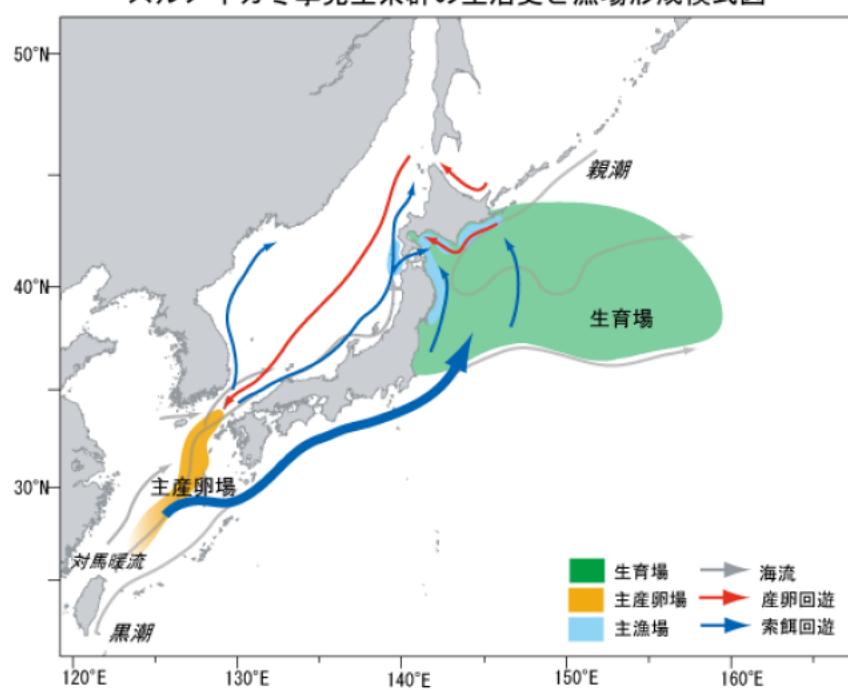


スルメイカ冬季発生系群 平成28年度資源評価結果

1

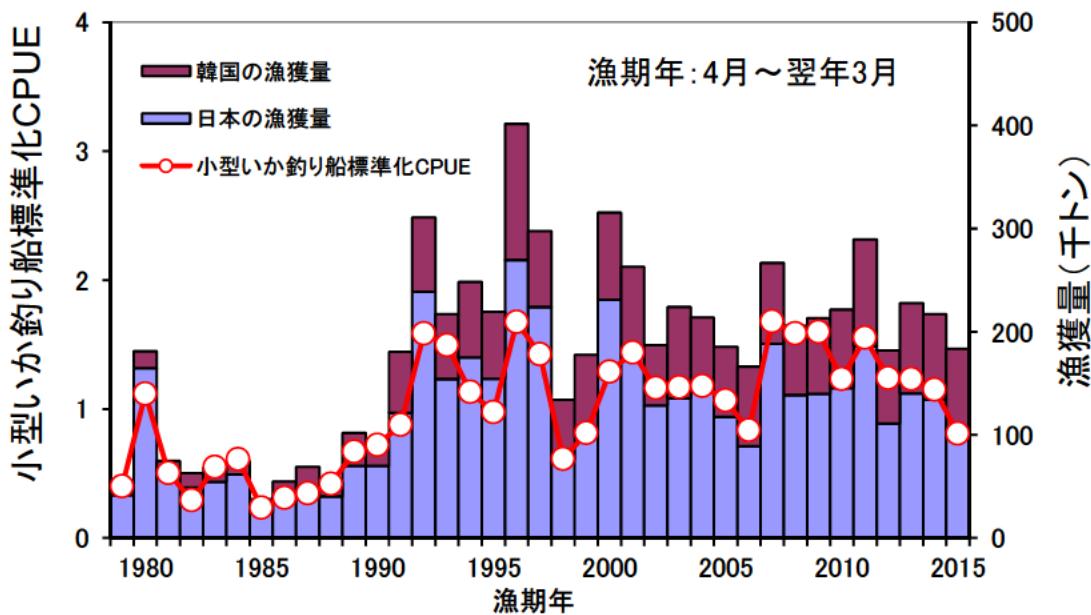
生態・分布・回遊・漁場

スルメイカ冬季発生系群の生活史と漁場形成模式図



2

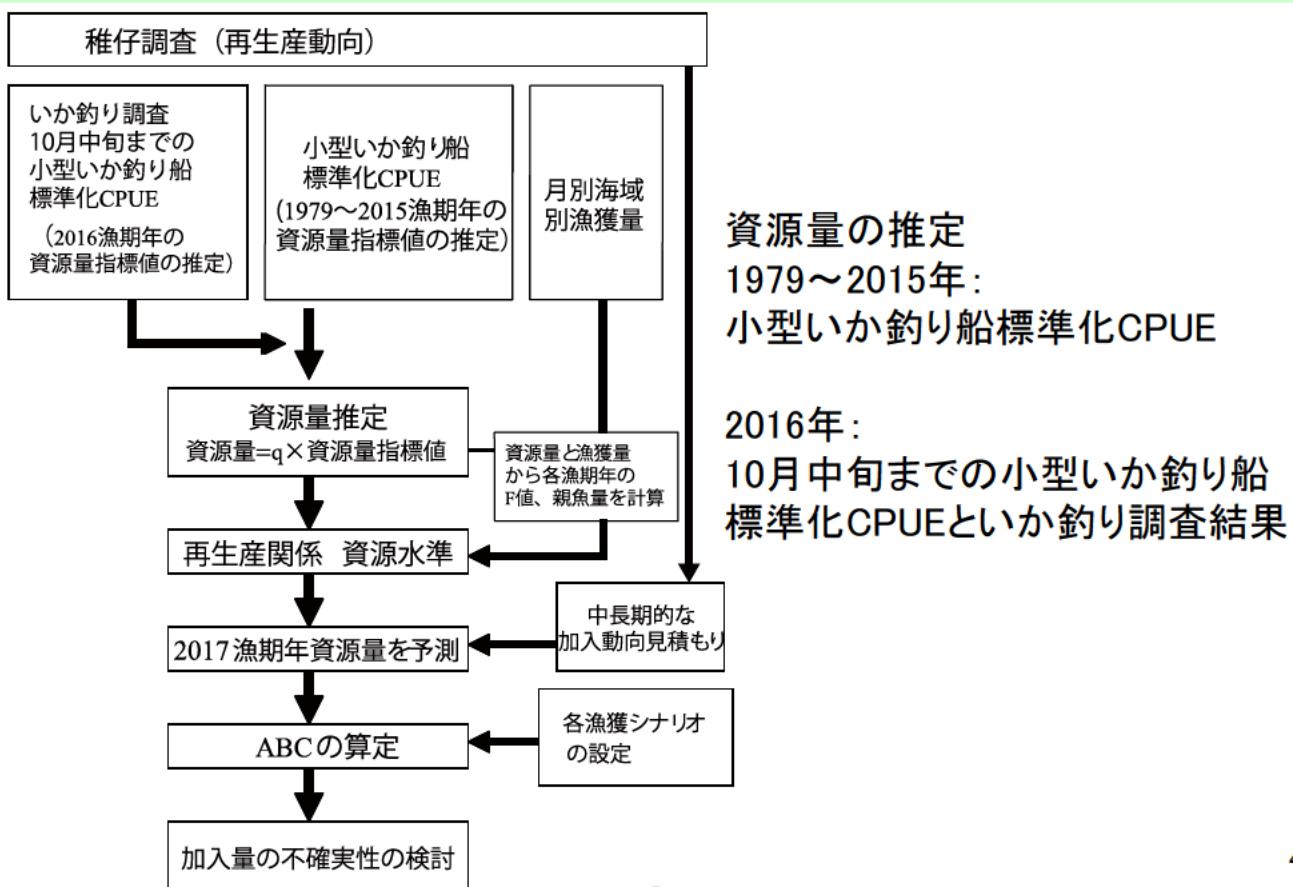
漁業の状況：漁獲量・資源量指標値の推移



- 1980年代は低水準が継続、1989年以降増加
- 2015年漁獲量 18.3万トン(前年比84%)
- 小型いか釣り船標準化CPUE 0.81(前年比70%)

3

資源評価の流れ



今年度の更新

①資源評価時期の変更（8月→12月）

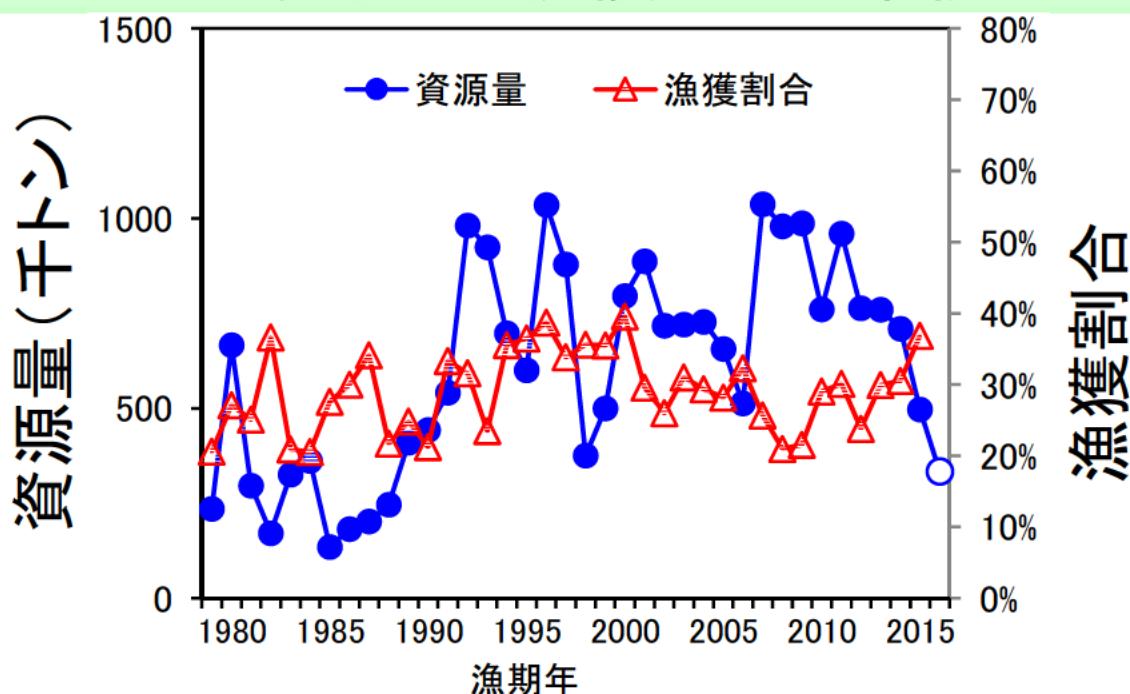
直近の漁業情報（～10月中旬）と
調査結果（8・9月）を利用した方法に変更
効果：2016年資源量の推定精度向上

②標準化CPUEの導入

資源量指標値に標準化した小型いか
釣り船CPUEを使用
効果：漁場形成の年変動にも強い指標値

5

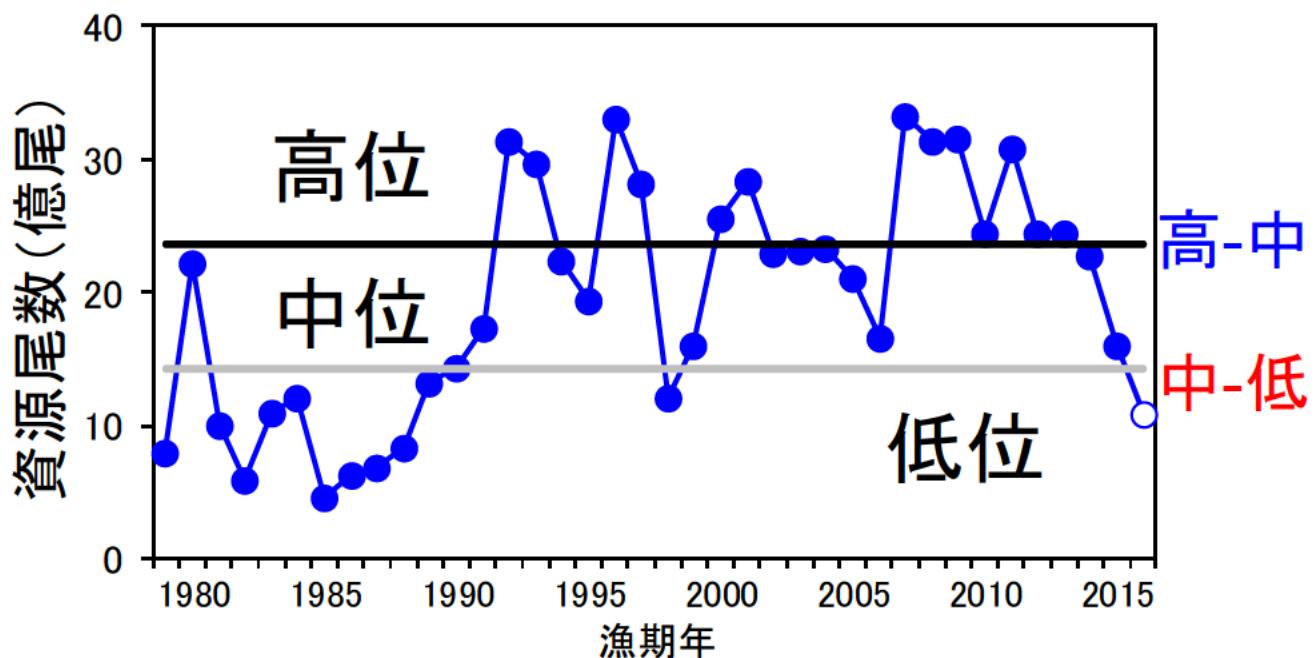
資源の状態：資源量と漁獲割合の推移



- 2016年資源量 33.4万トン（調査結果等から推定）
- 2015年漁獲割合 37%

6

資源の状態・資源水準・動向

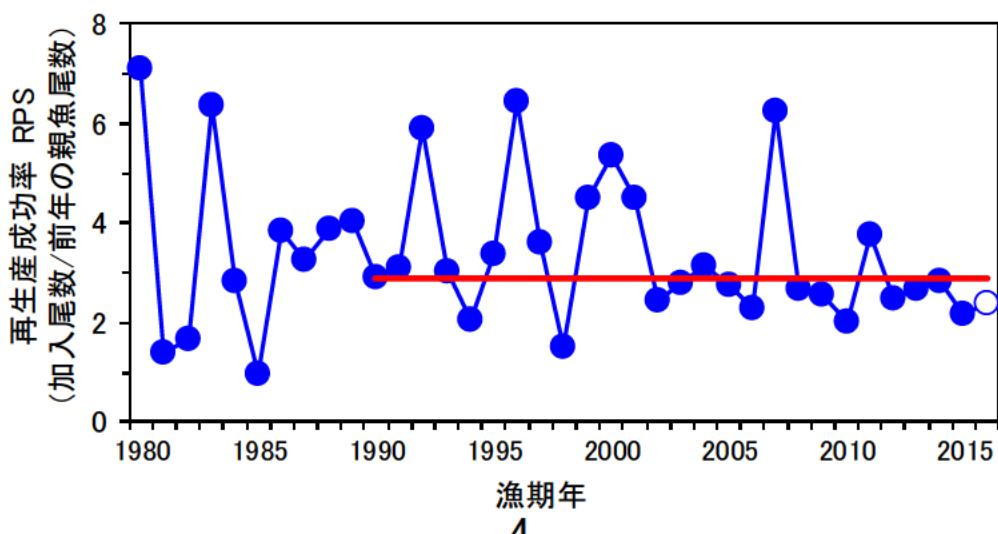


水準：低位 動向：減少

7

今後の加入量の見積もり

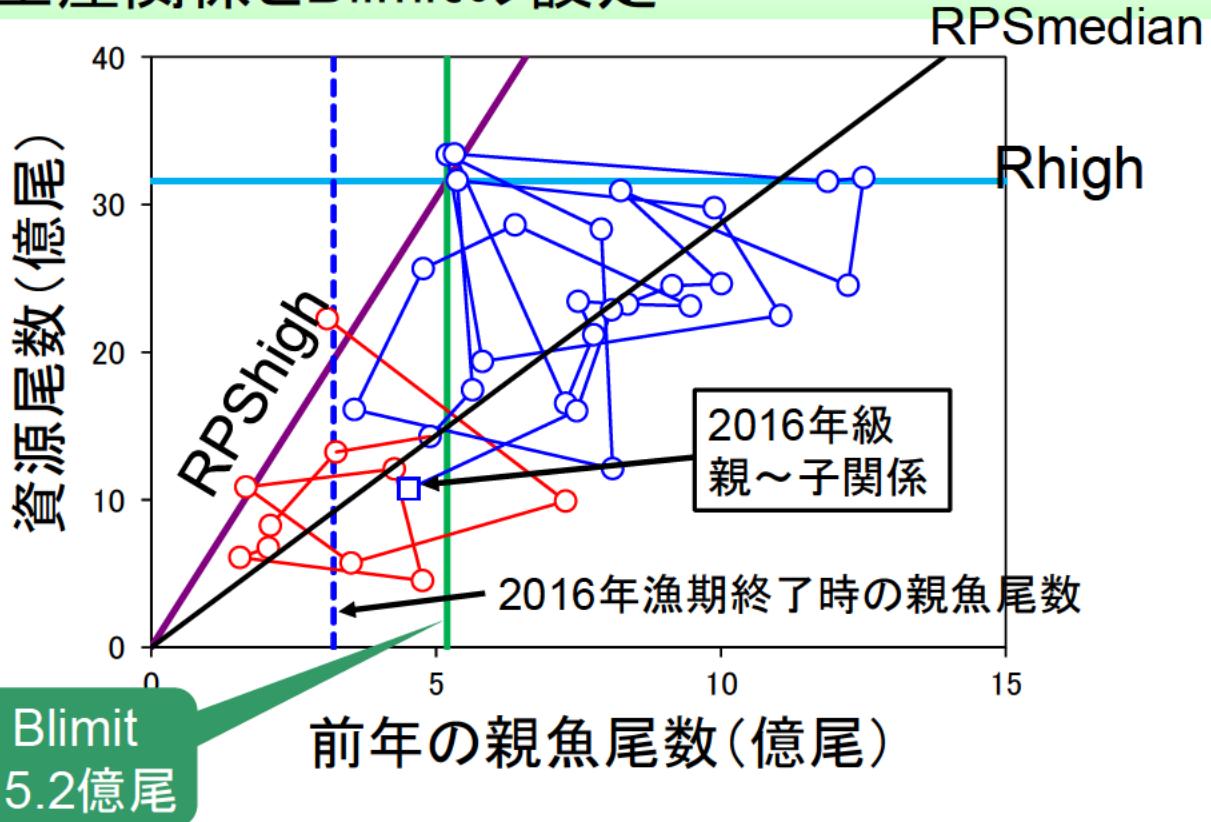
不適レジームに移行した可能性が窺われるものの、現段階では判断するための情報が不足しており、調査結果についても過去の好適レジームの範囲内にほぼ含まれたこと等を勘案し、判定はせず、加入の見積もりには昨年までと同様に、1990年以降の再生産成功率の中央値を使用した。



4

8

再生産関係とBlimitの設定



Blimit > 2016年漁期終了時の親魚尾数

資源評価のまとめと2017年漁期ABCの算定方法

● 資源評価

- 資源尾数は低位・減少(昨年度:中位・減少)
- 2016年漁期終了時の親魚尾数(3.3億尾) < Blimit(5.2億尾)

● ABC算定

- 規則 1-1)-(2)
- $F_{2016} = F_{current}$ (2013年～2015年の平均)
- 2017年資源尾数 = RPS (1990～2015年の中央値) × 親魚尾数

● 管理基準

- 親魚量の増大
 - ① $B/Blimit \times F_{med}(F_{rec})$
 - ② 5年でBlimitへ回復(F_{rec5yr})
- F_{med} : 中長期的に安定する親魚量を維持する漁獲圧

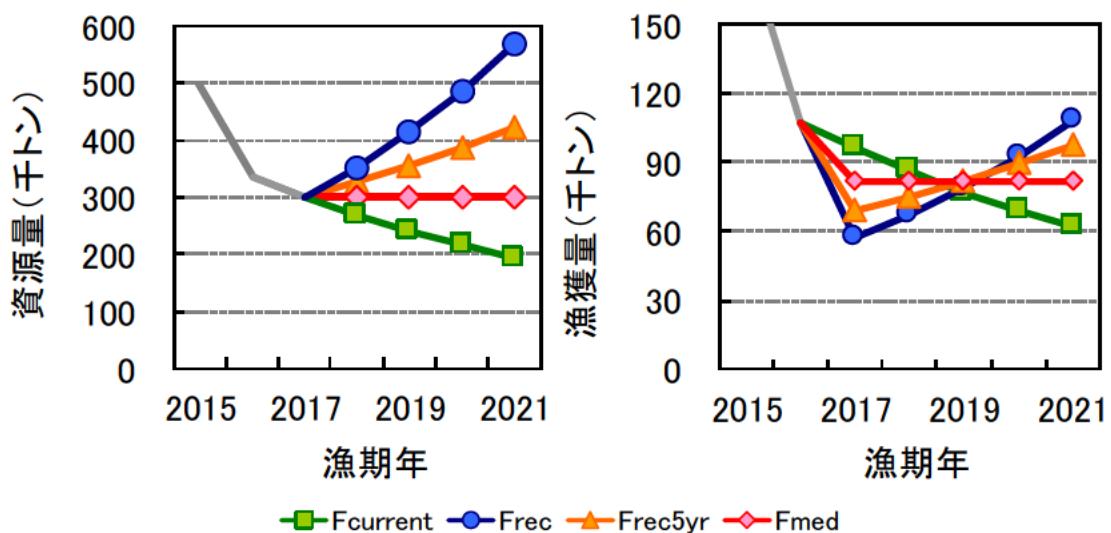
2017年漁期ABC

漁獲シナリオ (管理基準)	Target/ Limit	F値 (Fcurrentとの 比較)	漁獲割合 (%)	2017年 漁期ABC (千トン)	親魚量 (5年後) (千トン)
親魚量の 増大* (B/Blimit × Fmed) (Frec)	Target	0.24 (0.42Fcurrent)	16	47	312
	Limit	0.30 (0.52Fcurrent)	19	57	232
親魚量の 増大* (5年でBlimitへ 回復) (Frec5yr)	Target	0.30 (0.52Fcurrent)	19	57	232
	Limit	0.37 (0.65Fcurrent)	23	69	160

*を付したシナリオは中期的管理方針に合致する

11

各シナリオによる将来予測



シナリオ

Frec : 親魚量の増大(B/Blimit × Fmed)

Frec5yr : 5年でBlimitへ回復

Fmed : 2016年漁期終了時の親魚量維持

Fcurrent : 近年3年間の平均的な漁獲圧